

「北地区コミュニティネットワーク会議」の活動状況について

北連合町内会会長 あかまつ 赤松 のぶお 信雄

コミュニティネットワーク

「活力のあるまちこそ自らが力強い呼吸をしており、かつ1年1年着実に成長を遂げている。」と一言をよく耳にします。近年のまちづくりに対する住民のニーズは年々複雑多岐にわたっており、このようなニーズについて全てを満足させることは至難の業と言わざるを得ないでしょう。なぜならば多彩な事業に対し単独の団体または組織だけで対応するにはパワー不足に陥り、やむなく行き詰まりを生ずると言う例が過去にいくつかあったからです。

ちょうどこんなとき、合理的でかつ効果的に推進できる制度として浮上してきたのが、北区役所から各地区に指導のあった「地区コミュニティネットワーク会議」（以下Cネット会議という）の制度でありました。これはそれぞれの地区においてまちづくりに関係する団体・組織・企業などが一堂に会し、共通する分野のまちづくりに関して相互協力を前提に申し合わせ、率先して知識や情報あるいは労力の提供を行うというもので、終局的にはCネット会議全体の責任において事を成就させようという制度であります。（P78 参照）

当時北区連合町内会運営協議会の内部においてはその必要性を十分理解するものの、そのころ初めて聞かされた新しい制度であったため、個々には明快な決断が得られず、理想像を描きながらも実施には足並みが揃そろわなかったのであります。私どもの北連合町内会においても何回となく実現に

向けて議論を交わしたところ、現代のまちづくり活動には最も先進した制度として意見の統一がみられ、ようやく平成11年10月30日に48の団体が会員として登録した上、北区においては四番目の「北地区Cネット会議」として認められ、当時の北区長ら関係者出席の下に多くの期待を担いながら勇躍ゆうやく発足したのであります。因みにこの会議には性格上代表はなく事務局は北連合町内会に置きました。

初年度は従前北区役所主催で行われていた北区夏祭りを北地区Cネット会議で引継ぎ、平成12年8月4日「若草ふれあい夏のつどい in 北地区」と言うイベントを開催しました。創作太鼓の会・よさこいソーラン踊り・盆踊りそれからビンゴゲームのほか、各町内会からはカラオケや舞踊など盛りだくさんの出演がありました。また周辺には多くのテントを張り巡らせて売店を設置し食べ物や飲み物などが販売され、その他余剰スペースには不用品の減量化・家庭資源のリサイクルなどのシステムを展示、交通安全や防火防災防犯などの意識高揚を促進するコーナーや、更にはフリーマーケット・赤ちゃん広場・ちびっ子コーナー・保健師によるふれあい検診などの体験も行い、およそ7000人の区民の皆さんが訪れ、終始にぎわったのであります。また翌年の8月3日には北連合町内会が独自に「北地区夏祭り」を開催し、前年を上回る内容で地域ぐるみで感動をすると言う盛り上がりを見せたのであります。ところがこのようなビッグイベントは地域には大変に歓迎されるのであります。ところがこのように集まりである連合町内

会が主体となつての運営であることから、高齢者の体力には限界があるように当事者には大変な負担が強いられていたのです。また人件費など経費によるコスト高を勘案した場合、この形態による大会運営は必ずしも得策でないことが分かり、C ネット会議の趣旨を大幅に導入することによりもう少し簡便にできないかとの宿題を残し、区民の皆さんから惜しまれながら次回からの開催は一応中断することになったのであります。

そんな矢先「04 全国都市再生モデル調査事業」から千載一遇のチャンスが巡ってきたのであります。早速商業都市 24 条地域が先頭に立ち札幌市の中では唯一の申請者として名乗りを上げ、しかもC ネット会議の仲間や多くの地元団体・関係する行政などが積極的な支援に廻り、いわゆる地域ぐるみという一つの大きな集団となって応募したのであります。また北 24 条商店街振興組合理事長を委員長とし、他に幾つかの専門部をもつ実行委員会が組織され、ここで食と花とでまちづくりと言う「スローライフ・イン・にーよん」の構想ができ上がり、4 月から 9 月までの超ロングランという壮大な計画書を提出したところ、これが見事国の審査に合格し 3 年間の事業委託を受け、大事業が発足したのであります。当然この計画の中には地域に存在するあらゆる分野の団体がC ネット会議の趣旨に沿って参加し、それぞれが最も得意とする力を遺憾なく発揮できる体制がとられ、また一般住民もプランターで育てる花づくりに参加するなど広域的に推進されたのであります。イベントの中には長年地域の課題となっていた歩道内の不法駐輪車排除について、地域の人たちが詠んだ俳句の看板を掲出したことで一掃することにも成功しました。何といたってもメインイベントとしては 8 月 6 日に実施した『ノースロード 24 フェスタ』であって、北 24 条商店街の中核を担うサンプラザの内外施設の一部を解放してもらい、1000 人パーベキューなど商業地域ならではの奇抜なアイディ



ノースロード 24 フェスタ

アと実行力により盛りだくさんの行事が行われ、子どもからお年よりまでの皆さんが本当に楽しく感動のあるお祭りが行われたのであります。その後は観客の盛り上がりや要望にあわせ、年々イベントの内容を充実していき、例えば区民の生活に密着する各種講演会・地域内中学校高等学校の野外演奏会・ガーデニングコンテストを加えるなど、北区ではもちろんのこと他区からも熱いまなざしで注目を浴びるようになり、今では年中一大イベントと位置づけ地域の誇りあるブランドとして成長を遂げているところであります。

ワンちゃんパトロール

またそのころ各地では登下校中の子どもたちに不審者による声掛け事案が頻発し、まかり間違えば痛ましい事件へと発展しかねない恐れがあるだけに、関係機関に対して早急に効果的な対策を講ずるよう強く望まれていたのであります。こんなとき、たまたま北地区民生委員児童委員協議会の中から、多くの人たちが日課として歩いているペットの犬の散歩時間を利用し、犬の首輪にその趣旨を明示したエプロンを付け行動をアピールすることで、地域での防犯パトロールの一環として役立てたらどうかという提案が出されたのであります。

これがCネット会議で議論されたところ瞬く間に多くの賛同者を得るところとなり、北地区民児協会長を中心とする事務局が民児協の内部に設置され、「ワンちゃんパトロール」と命名されたうえ、規約を制定し、Cネット会議全体の事業として協力しながら実施することになったのであります。現在の協力者数は北地区だけでも400人を超える規模に膨れ上がっており、協力者それぞれの都合に基づき自由に活動を行っているのであります。特に定例的な行事としては毎月第三金曜日に地区内の小学校3校にたすきを着けて集まり、低学年の下校に同行しながら通学ルートに沿って防犯パレードを行い、地域の防犯意識の高揚と啓発を併せた犯罪の抑止効果にも期待をしていますのであります。参加者としては民児協委員・町内会役員・



ワンちゃんパトロールの風景

地域安全活動推進委員更には一般家庭の主婦までもが自主的に加わり、大体1校区当たり20人の人たちが団体で行動することから遠くからもハッキリ目立ち、また道で行き交う人たちとはほとんど顔見知りであることから気楽にあいさつや防犯の情報交換をしたり、自転車で信号無視する青少年に対して交通安全の指導をするなど、少なくとも地域中心核の防犯活動ならではの活動効果が期待できるのであり、北区PTA連合会・中学校の青少年健全育成委員会・スクールガード委員会や各種まちづくり会合などでは大変関心がもたれ、ワン

ちゃんパトロールは北地区のトレンドとして大いに注目をされているのであります。

地域交通安全活動

このほか北地区Cネット会議の趣旨に沿って、たくさんの人たちが参加しているものとしては、地域交通安全活動があります。交通安全活動についてはその被害の悲惨さから町内会でも年中の重要事業としていますが、町内会独自ではその効果は必ずしも満足できないことから、交通安全協会や交通安全推進委員会などに協賛して広域的に実施しているのが実態です。このほか、ますます多様化する福祉推進委員会の諸行事、地域でしかできない大切な青少年健全育成事業や各種防災防犯防火に関わる訓練など、個々の専門的な技術や知識を発揮しながら地域全体で成果を上げており、少なくともCネット会議によるまちづくり事業の原点を遵守し実践しているのであります。

近年は住民自治という言葉が各方面から活発に聞こえてくるようですが、現代的に表現しますと「Cネット会議なしに住民自治なし」と言えるのではないのでしょうか。その基本とするものは「皆で考え皆で実施する。個々の得意性を活かす。

将来への継続性を尊重する。」ことが考えられると思います。区民の皆さんへ安心安全でしかも潤いのある生活環境を提供するためには、どんな時代にも対応できる幅広い知識と力強い理念を心に留めて、住民の皆さんからこのまちに住んで本当に良かったと言われるようなまちづくりを行い、地域社会発展のため努力してまいりたいと考えているところであります。